

ブレイクアウトの罫を抜ける 「ロールリバーサル」の力

「抜けた瞬間」を狙うギャンブルから、
「抜けた後の確認」による堅実なトレードへ。

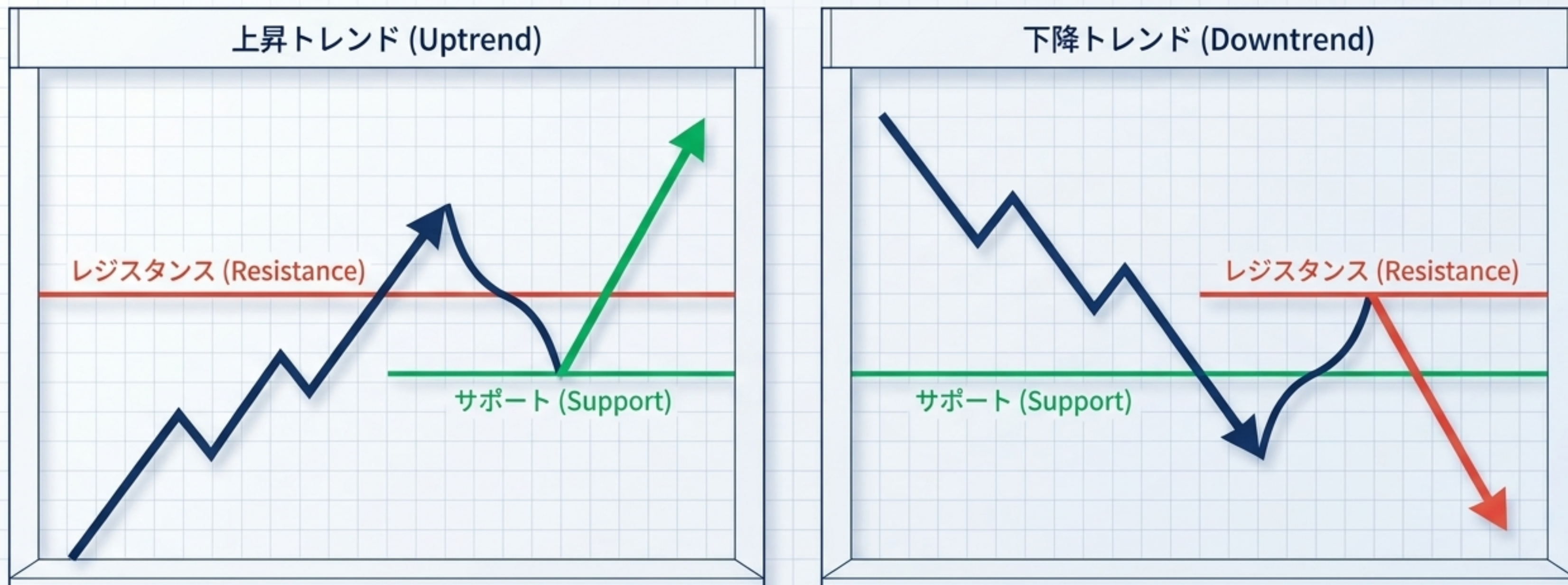


なぜ、あなたのブレイクアウトはいつも「ダマシ」に終わるのか

- レジスタンスをしっかりと抜けたから買ったはずが、直後に急落。
- 原因は、市場がまだ「その価格帯を本当に突破した」と合意していないから。
- 初心者ほど陥る罠：「抜けた瞬間」に飛び乗る感情的なトレード

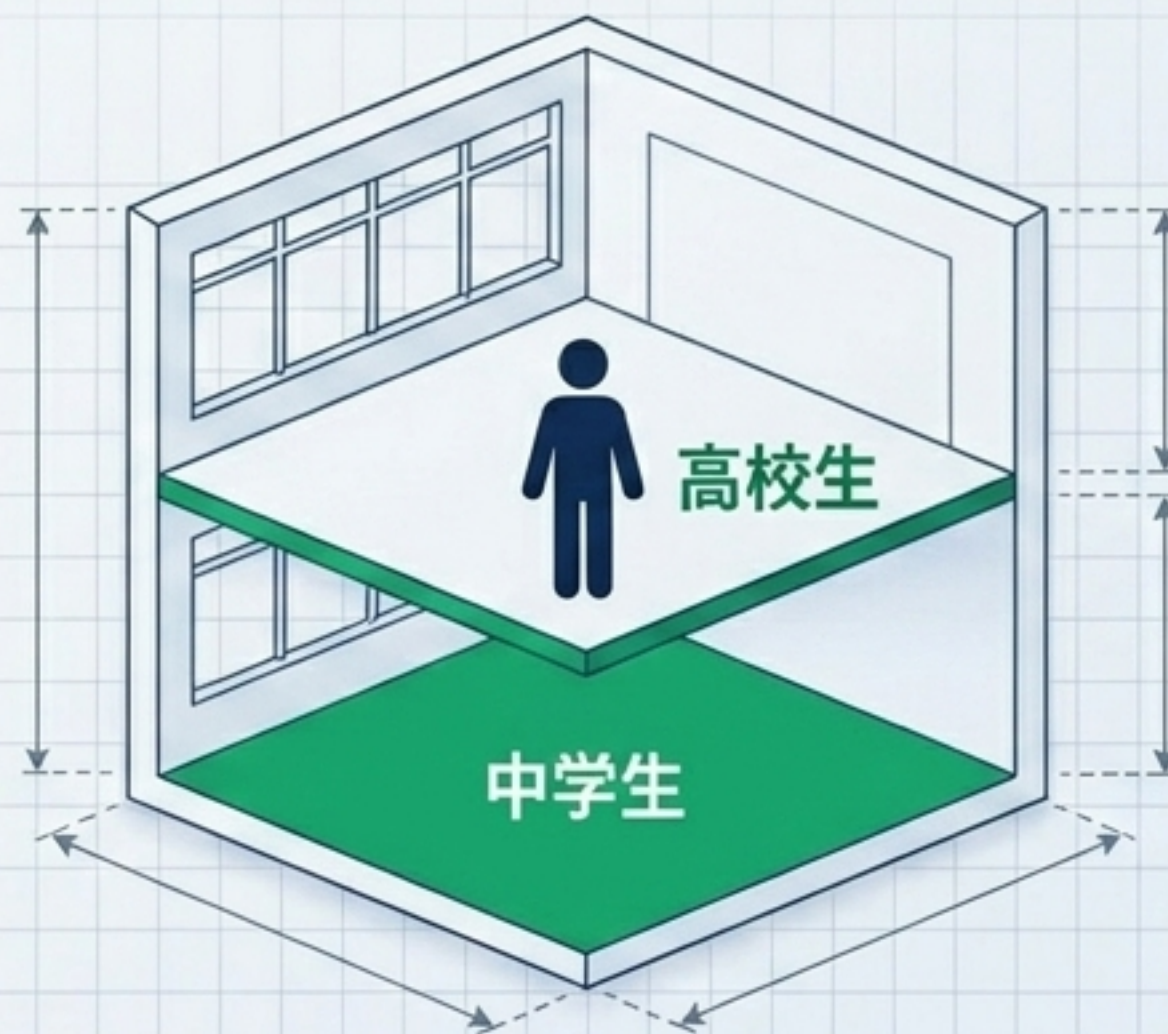
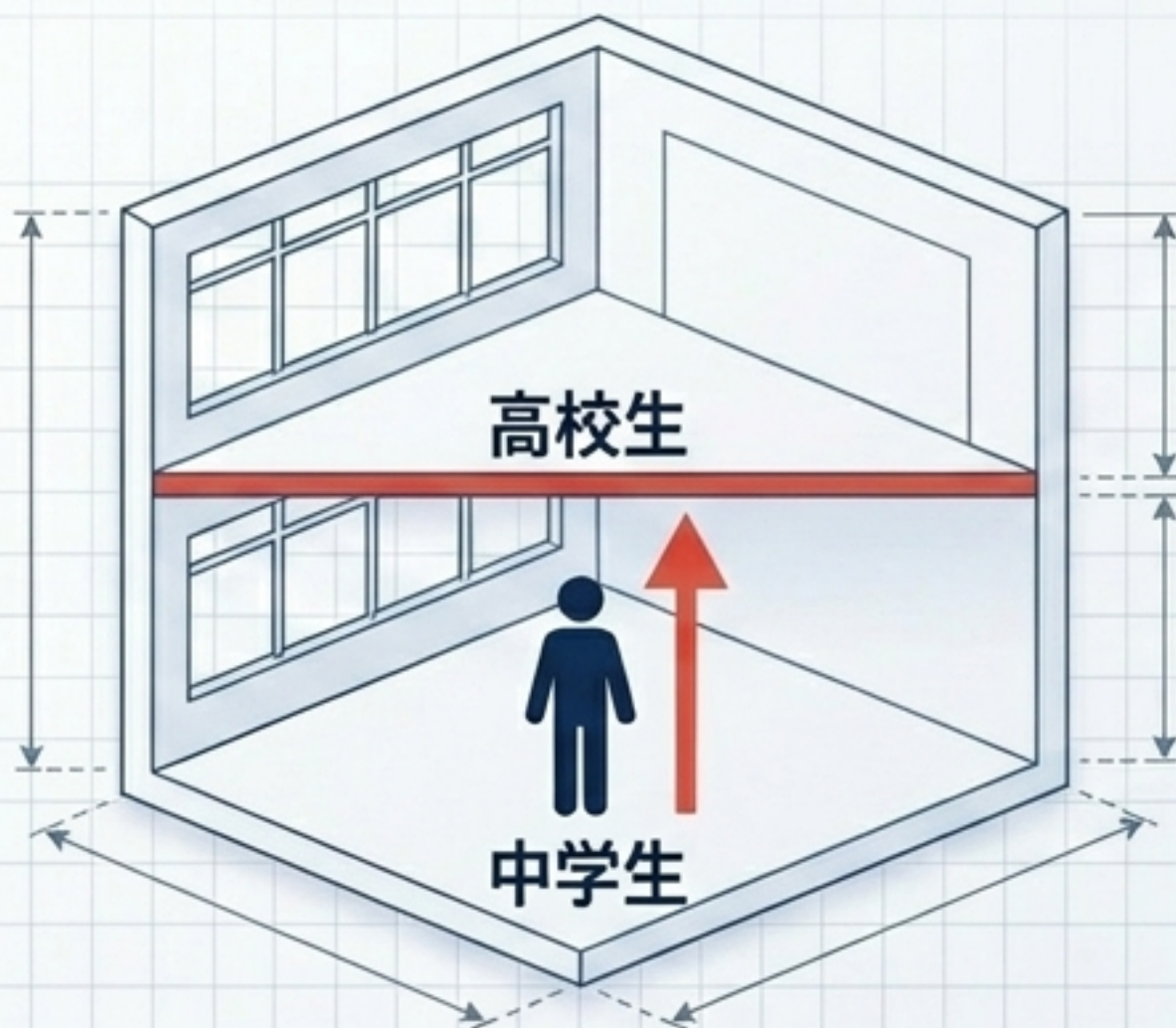


過去の「壁」は、突破された瞬間に新たな「土台」へと変わる



ロールリバーサル (Role Reversal) の定義：サポートとレジスタンスの役割が完全に逆転・入れ替わる現象。

日常生活の「卒業」が生み出すパラダイムシフトと同じ構造



- 中学生にとって「高校生」は見上げる憧れの存在（上値の壁）。
- しかし自分が進学した瞬間、それは当たり前前の「足場（床）」になる。
- FXの価格帯も同じ。見上げていた壁は、抜けた瞬間に新しい基準の床になる。

チャートの裏側で起きている「市場の共通認識」のギアチェンジ

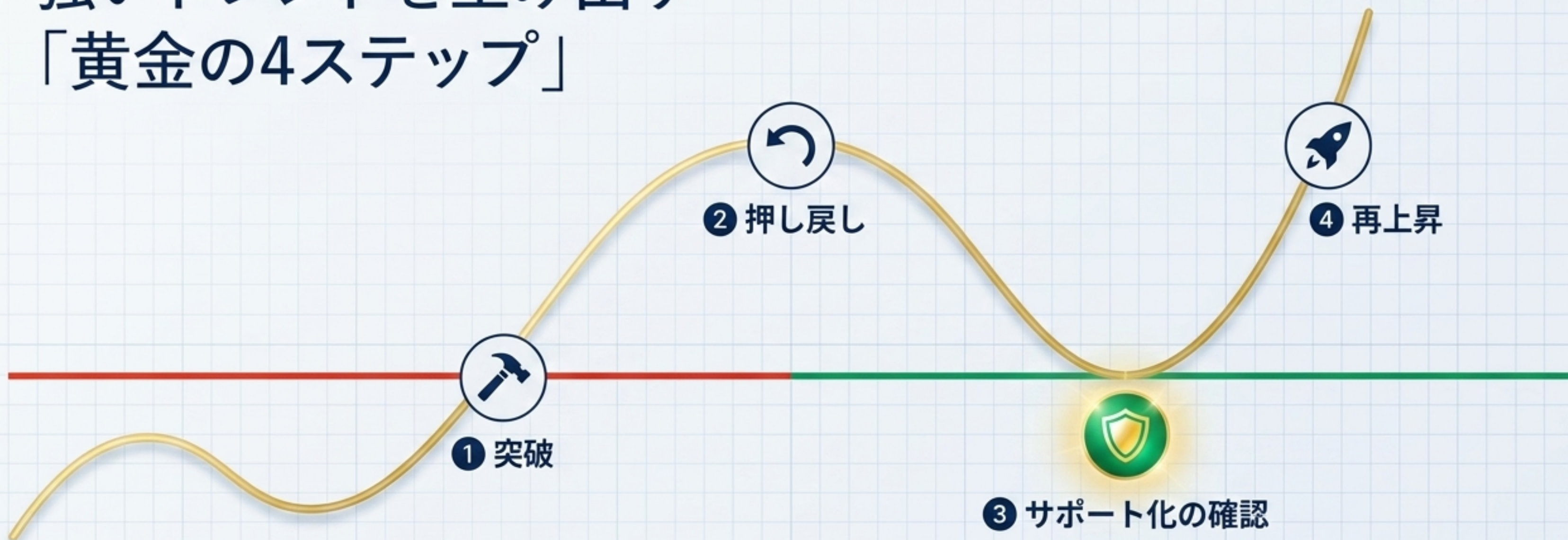
「あそこは高い壁だ。
売ろう」



「あの価格帯？
もう安い安。押しても買うよ」

- ロールリバーサルは、市場参加者の「共通認識」が完全に切り替わった証拠。
- 価格が戻っても買われる(売られる)のは、大衆がその価格帯の価値を再評価した結果である。

強いトレンドを生み出す 「黄金の4ステップ」



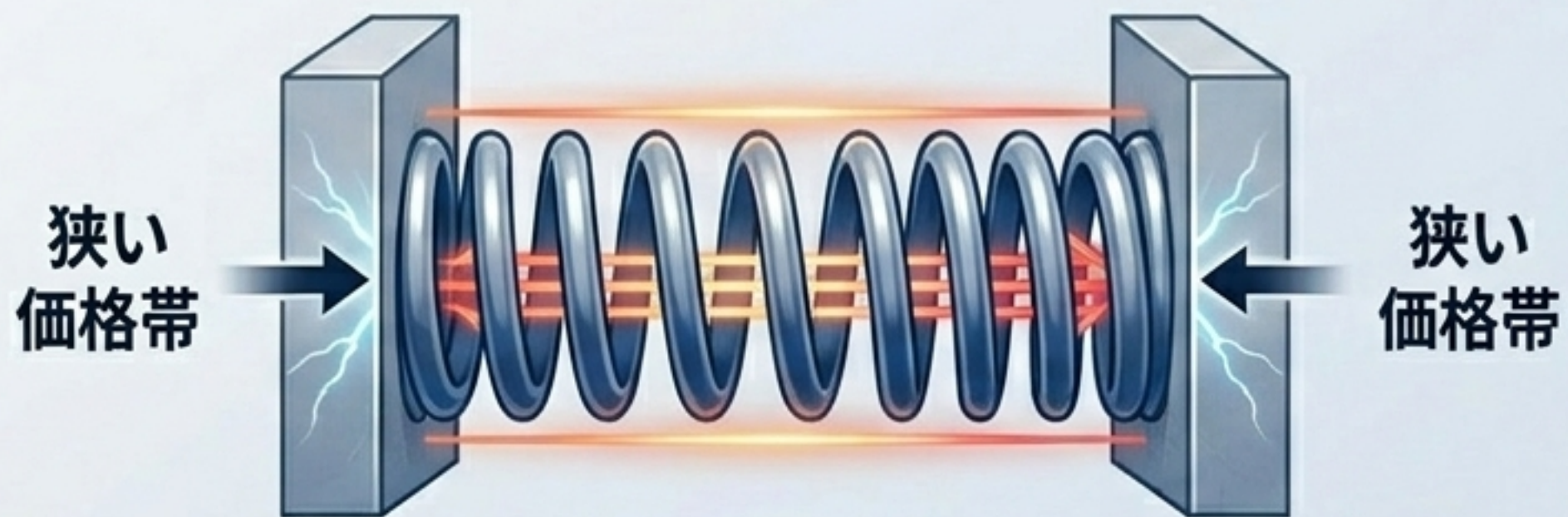
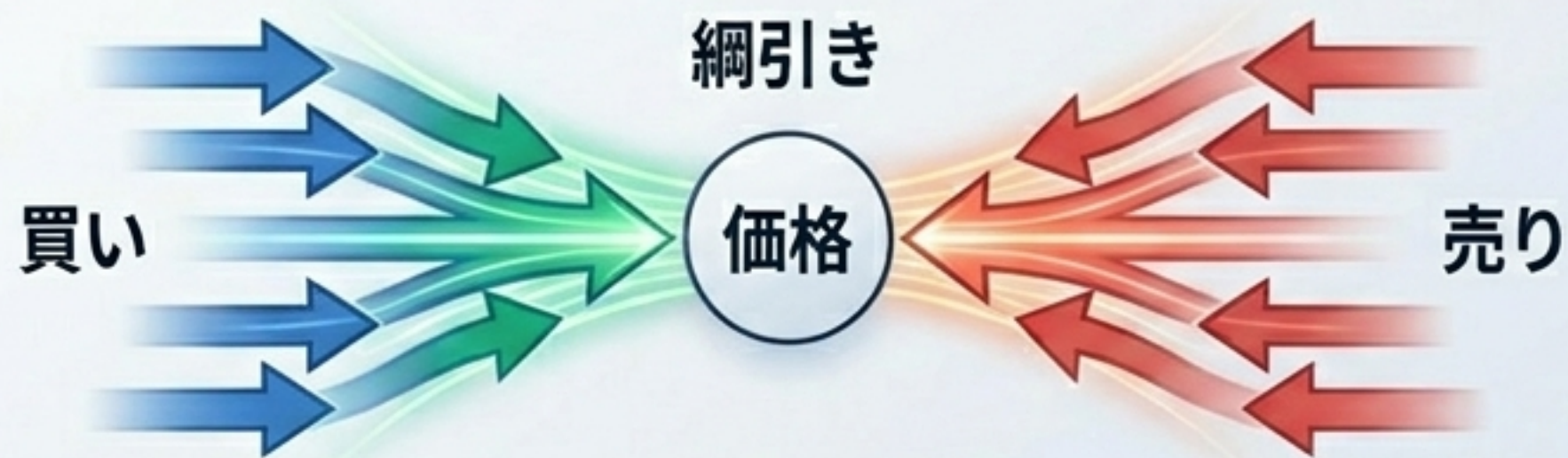
・ステップ1の「抜けた瞬間」だけで判断するのは最も危険。

・ステップ3の「サポートとして機能した事実」を確認した時、初めて強い動き（強い合意）が生まれる。

そのブレイクは本物か？ダマシとの決定的違いを診断する

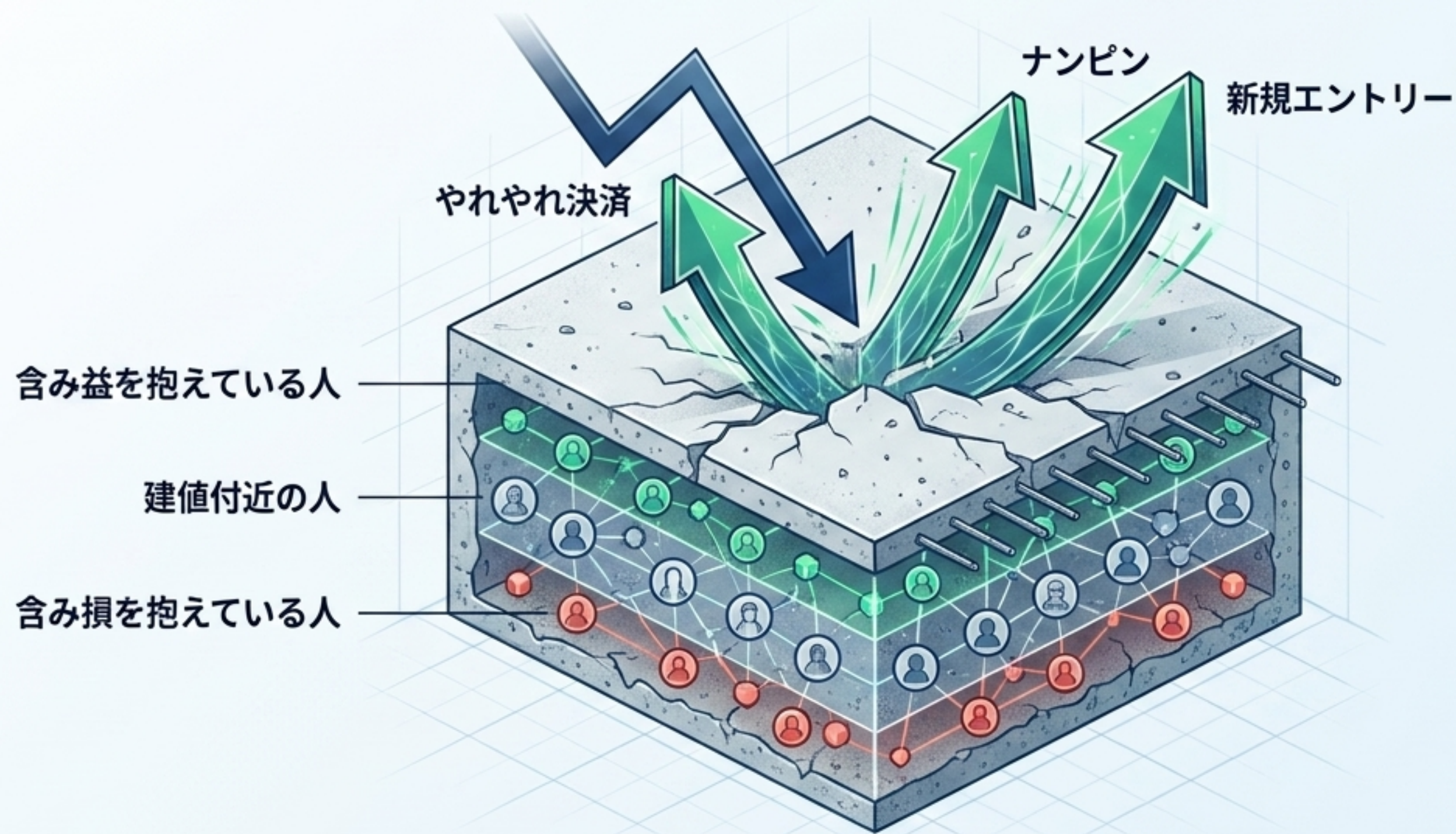
	ダマシ (ロールリバーサルなし)	本物のブレイク (ロールリバーサルあり)
市場の合意	<ul style="list-style-type: none">・ 弱い (皆がその方向を見ていない)	<ul style="list-style-type: none">・ 強い (新しい基準として認識)
ブレイク直後の動き	<ul style="list-style-type: none">・ すぐに元のレンジへ戻る	<ul style="list-style-type: none">・ 抜けた価格帯で反発する
その後のトレンド	<ul style="list-style-type: none">・ 伸び切れず再度売られる	<ul style="list-style-type: none">・ スルスルと迷いなく伸びる

横ばい相場（保ち合い）は「エネルギーの充電期間」である



- 買いと売りが拮抗する「力比べ」の状態。
- なかなか決着がつかない時間が長引くほど、バネのようにエネルギーが溜まる。
- 「いつ抜けるか」を当てるのではなく、「抜けた方向についていく準備」をしておくことが重要。

なぜ「人が集まった価格帯」は鉄壁の防衛ラインになるのか



- 大量の買いと売りが発生した場所には、様々な心理状態のトレーダーが密集している。
- 価格が戻ってきた時、これらの注文が一気に集中するため、極めて強力なサポート/レジスタンスとなる。

勝率を劇的に上げる「ブレイクアウト後の観察眼」チェックリスト



エントリー前に以下の「市場の反応」を必ず確認する：

- 抜けた価格帯を維持できているか？
- 押し戻された際、かつての壁にしっかりと支えられたか？
- その価格帯で「値固め（保ち合い）」は起きているか？
- （下落の場合）戻り売りが確実に入っているか？

焦らず、チャートに刻まれる「新しい基準」を待とう



「抜けた瞬間に飛び乗るゲーム」
(The Gambler)



「抜けた後の反応を見るゲーム」
(The Architect)

- ロールリバーサルというフィルターを通せば、チャートは単なる線の集まりから「大衆心理の建築物」へと変わる。
- 「ちょっと待って確認する」という一手間が、あなたのトレードの再現性を飛躍的に高める。